

2016年5月1日

**「恐れることはない。わたしはあなたと共にいる神」 イザヤ41:10**

バビロンからの解放は、「東からふさわしい人」（ペルシャのキュロス王）が来て、間もなく実現します。主はイスラエルを特別に愛して救い出されます。

世界を造って支配しておられる神が、「わたしの僕イスラエルよ…あなたを選び、決して見捨てない」と言われます。私たちも神に選ばれて、「キリスト者となる礼典」（洗礼）と、「キリスト者であり続ける礼典」（聖餐）を受けます。

弱体化してもなお栄華を誇るバビロンですが、やがて「争う者は滅ぼされ」ます。主は、「恐れるな、わたしはあなたを助ける」と励まされます。「神の言葉を注意深く聞かない者は、いつまでも疑いと不安に苦しめられる。」（カルヴァン）「虫けら」のような民でも、「あなたを打穀機（馬に引かせる刃のついた板）とする」と約束されます（→「神もし我らの味方ならば…」ローマ8:31）。

故国への帰還の希望には、不安も伴います（砂漠の旅!）。「渇きに舌は干上がる」と恐れますが、主は、「不毛の高原に大河を開き…荒れ野に杉やアカシアをミルトスやオリーブの木を植え」てくださる御方です（→エフェソ3:20）。

「わたしはあなたの神」と言われる御方が「共にいる」と言われ、「み恵み豊けき主の手」（讃294番）が導かれます。

2016年5月8日

**「傷ついた葦を折ることなく、暗くなってゆく灯心を消すことなく…」 イザヤ42:3**

偽りの神々は「起こるべき事」を告げる力はありません。真の神は「北から人（キュロス王）を奮い立たせ」、イスラエルを解放して「主の僕」とされます。

主は、「見よ、わたしの僕」と、誇らしげに紹介し、「国々の裁きを導き出す」（世界に神の正義をもたらす）者として、「叫ばず…折ることなく…消すことなく…傷つき果てることもない」優しさと強さをもって登場すると言われます。「弱さを知る者」こそ強いのです。

今は捕囚（難民!）のイスラエルですが、天地万物の創造者である主が、「恵みをもってあなたを呼び…諸国の光」とされたのです（→アブラハム「祝福の源となるように」創世記12:2）。

主は改めて「わたしは主（ヤハウエ）、これがわたしの名」と、自己紹介されます（→「わたしはある（存在する）という方」出エジプト3:14）。この御方とつながっている限り、私たちは大丈夫です（→ヨハネ15章「ぶどうの木」）。主は「新しいこと…が芽生えてくる前」に、民に告げて希望を与えられます。

「傷ついた葦」のような弱い者に対しても、「彼らの中にある良いものを保ち、強めようとする」（カルヴァン）働きが大切です（→マタイ12:18-21 主イエス!）。いつも主が必要です（讃525番）。

2016年5月15日（ペンテコステ礼拝）

**「わたしは、父が約束されたものをあなたがたに送る。」 ルカ 24：49**

ルカ福音書の最後は、使徒言行録の最初の聖霊降臨（ペンテコステ）の記事につながります。復活の主が聖霊の約束と世界宣教の使命を語られます（遺言！）。

復活の日の夕方、エマオで2人の弟子に現れた主イエスは、その夜、11弟子たちの所に来て、「彼らの真ん中に立ち…わたしの手や足を見なさい」と十字架の傷を見せ、さらに「焼いた魚を…彼らの前で食べられ」ます。「主はご自分の復活の確かさを彼らに信じさせるために食べて見せられる」（カルヴァン）のです。

強い印象も時間と共に薄らぐので、主は「律法と預言者の書と詩編」（旧約聖書）の大切さを教え、「聖書を悟らせるために彼らの目を開」かれます。聖書によれば、主の復活に続いて「罪の赦しを得させる悔い改めが…あらゆる国の人々に宣べ伝えられる」とあるように、彼らは「エルサレムから始めて…証人となる」でしょう（→使徒1：8）。

主の働きが弟子たちにバトンタッチされるのですが、その前に聖霊なる神が来られます。それまでは「都にとどまっていなさい」と言われたので、彼らはその通りにします（→使徒1：13、2：1）。

主は彼らを「みなしごにはしておかない」（ヨハネ14：18）ために、聖霊を送って力づけられます（→讃448番）。

2016年5月22日

**「わたしの目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛し…」 イザヤ43：4**

バビロンの預言者イザヤは、主なる神がどれほどイスラエルを愛し、大切に取り扱おうとされるか、を語ります。

主はイスラエルを「創造され…造られた」方ですが、彼らは放蕩息子のように「（心の）目の見えない者…耳の聞こえない者」になり、捕囚になって苦しんでいるのに、「火が自分に燃え移っても」気付かないほど鈍感です（→42：18-25）。しびれを切らせた主は、「わたしはあなたを贖う」と、買い戻そうとされるのです（→『アンクルトムの小屋』！）。

彼らが故国に帰るために、「水の中を通るときも、わたしはあなたと共に」いると約束され、「エジプトをあなたの身代金とし」て与えても惜しくないほど、「わたしはあなたを愛し」ている、と言われます（→何も惜しまない親の愛！）。

今はバラバラになっているイスラエルの民ですが、主は「東から…西から…北に向かって…南に向かって」呼びかけ、「わたしの息子たちを…（わたしの）娘たちを…連れ帰れ」と命じられます（→主の日の礼拝に呼び集められる私たち）。

石ころのような者を、主は「価高く、貴い」宝石（プレシャス・ストーン）と見て、法外な身代金を払われます（→マルコ10：45）。この愛を知る者は、「安かれわが心よ」（讃298番）と歌います。

2016年5月29日

**「わたし自身のために…罪をぬぐい、あなたの罪を思い出さないことにする。」**

**イザヤ 43 : 25**

旧約の神は厳しく裁き、新約の神は優しく赦す、と考えやすいのですが、そうではありません。主なる神はイスラエルを愛し、罪を赦して救おうとされます。

かつてエジプトからイスラエルを救い出された神が、「見よ、新しいことをわたしは行う」と言い、バビロンからの「第2の出エジプト」を約束されます。それを見て「山犬や駝鳥もわたしをあがめる」でしょうが、イスラエルこそ「わたしの栄誉を語る」べきです（父の日！）。

主にとっては「目に入れても痛くないほどかわいい」民ですが、彼らは「わたしを呼ばず…重荷とした」のです。神殿の礼拝でも、「羊…いけにえ…穀物…乳香…（インド産の）香水萱…いけにえの脂肪」などを献げても、かえって「わたしに重荷を負わせた」という結果になりました（親の心子知らず！）。

そういう罪深いイスラエルですが、主は「わたし自身のために」赦そうと決断されます。「主は、彼らの罪を赦すように何か他の理由に促されたのではなく、ご自分の善意だけで十分とされた」（カルヴァン）のです。彼らは「自分の正しさ」を主張することは出来ません。

罪深い人類ですが（→オバマ大統領のスピーチ）、「イスラエル人を救いし御神」（讃 258 番）を知る者は失望しません。